

平成 27 年度入学式式辞

大分川の川面をさわやかな風が吹き、木々の梢には新しい命が芽吹き始めました。本日、PTA会長 岡田正彦様、高校同窓会会長山内啓嗣様、豊流会会長 篠永朋子様はじめ多くの来賓のご臨席をいただき、大分県立大分豊府中学校第9回入学式、大分県立大分豊府高等学校第30回入学式が盛大に挙行できますことは、本校にとりまして誠に光栄であり、心から感謝申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました中学校第9期120名、高等学校第30期280名の新入生のみなさん入学おめでとう。皆さんは大分豊府で学ぶことを自分の意思で選択し、高倍率の入学試験を突破し、合格を果しました。そして今日、期待に胸を膨らませて校門をくぐったと思います。今日から大分豊府での学校生活が始まります。今の気持ちを忘れず、精進してください。

大分豊府は世界標準の学力と人間力の育成を目標とし、3つのキーワードを教育目標として掲げています。一つは高い志を持つ人を育てること。二つ目は創造的な知性と豊かな人間性そして逞しさを持った人を育てること。3つめは10年後、20年後、国際社会で活躍できる人を育てることです。そのために、豊府では思考力の育成に力を入れています。しっかりした思考をするため、徹底した「基礎力」を身につけてもらいます。そしてなにより、自主的に「思考」を実践する体験を重要視しています。

これまで地元の小学校や中学校という狭い社会で皆さんは育ってきました。しかし、皆さんが生きていく21世紀は、想像を超えるスピードで科学技術は進化し、人・物・情報は国境を超えて流通する時代です。21世紀を自分らしく生きていくためには狭い社会から飛び出し、自分の殻を打ち破り、成長し変わらなければなりません。昨日までとは全く違う環境の中で、広い世界の中で自分らしく生きていくための第一歩が今日から始まります。

英語のことわざに a rolling stone gathers no moss という言葉があります。日本語では「転がる石には苔が生えない」と訳されています。このことわざには「何事も苔が生えるまでじっくり取り組むことが大切」という意味と「絶えず変化し続けないと苔が生えてしまう」という意味の二つがあります。科学技術、グローバル化が予測のつかないスピードで進行する21世紀を生きていく皆さんは、現状に満足せず変化し続け、成長し続けることが重要で、皆さんには転がり続けることを求めます。

豊府は様々な地域から様々な個性や能力を持った生徒たちが集まるダイヤモンドの原石の集団です。ダイヤモンドの原石はダイヤモンドの中を転がり続けることにより、光り輝き始めます。しかし、ダイヤモンドの中で転がり続けるのは痛みを伴います。その痛みは皆さんを磨き上げ、成長させるために、越えていかなければならない重要な経験です。痛みをひるむことなく、立ち向かってください。中学生生活・高校生活は約千日。「ライクアローリングストーン」、転がる石のように豊府での千日、二千日間、自分を磨

き続け、大分豊府を卒業する時、たくましく21世紀を生きる、知恵のある心優しい、そして世界に貢献する志を持った人となるよう、日々精進してください。私たち教職員は、みなさんの夢の実現を支援するため情熱と愛情を持って全力で向かい合います。皆さんを成長させるため厳しい指導もします。そして皆さんが10年後、20年後、世界の中で自分らしく、誇り高く生きていく力を育てていきます。

保護者の皆様、本日はまことにおめでとうございます。教職員一同、責任をもってお子様の教育に当たる所存であります。高校1年生は千日後、中学1年生は二千日後には皆さんの庇護を離れ、自分の力で歩き始めなければなりません。大分豊府で過ごす時間は長い人生の中ではほんの一瞬です。この間、子供たちは泣いて帰ることもあります。思い悩み苦しむこともあります。しかし、それを越えて生きていく力を付ける、人生で最も重要な時間です。子供たちを成長させていくには、学校と家庭がそれぞれの責任と役割を果たしながら、互いに補完していかなければなりません。ご家庭におかれましても、子供たちを徒に庇護するだけでなく、痛みに立ち向かい、乗り越える勇気を教え諭してください。決して安楽ではない本校の教育活動にご理解を賜り、ご支援とご協力をお願いします。

大分豊府は今、大きく飛翔しようとしています。昨年3月卒業した中学2期・高校26期生が拓いた大分豊府の新しい道に、今春本校を旅立った中学3期生、高校27期生はさらに素晴らしい道標を残してくれました。その新たな道のさらに先の道を本日入学した400名を加えた生徒、教職員が共に歩み続けることをお誓い申し上げ、式辞といたします。

平成27年4月9日

大分県立大分豊府中学校

大分県立大分豊府高等学校

校長 有定 裕雅